

第4回桑名市総合計画審議会 会議概要

日時・場所	平成26年1月22日（水）17:00～20:00 桑名市役所本庁舎 5階中会議室
出席者	委員：13名 市：2名 事務局：5名
会議次第	1 副市長あいさつ 2 事項 （1）11月24日開催 地域会議の報告について【資料1】 （2）施策の現状と課題について 3 その他
概要 （主な意見）	<p>2 事項</p> <p>（1）11月24日開催 地域会議の報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大山田公民館で開催された地域会議について、テーマごとに参加者から出された意見について事務局から報告をした。 <p>（2）施策の現状と課題について</p> <p>【子どもを3人育てられるまち】 （子ども・子育て支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童保育の運営は、金銭面で父母の負担が大きいと感じている。家庭の経済状況によっては保育料が高すぎて参加できないなどの話を聞くこともある。子育てサービスの充実を目指すのであれば、学童保育について、行政も一緒になって解決していかなければならないと思う。 ・学童保育の問題に限らず、市民が行政を頼りにする状況は現状では限界がある。 ・桑名市の新興住宅地では市民の中でも世代間のタテ割りが発生しているように感じる。地域によって集中している世代層が異なるため、子育て中で忙しく時間も足りないと感じている世代が多い地域と、一方で子育てを終えた世代が時間を持て余し、身に付けた技術を第二の人生で活かしたいと考えている地域がある。 ・これからの行政は、制度作りではなく、住民特性を活かし世代間をどう仲介するか、つないでいくかがカギとなる。『子どもは社会で育てるもの』という考え方を浸透させ、市民同士の壁を取り払いつないでいくことが行政に求められている。 ・女性職員が夫の仕事の都合で親族と離れたまちに住まなければならないとなると、出産後の育児を手伝ってくれる人が近くにいないため、2人目・3人目の出産をあきらめてしまうようなケースを職場でも体験した。 ・男女共同参画とはいっても妊娠・出産は女性にしかできず、育児についても女性への負担がどうしても大きくなるため女性の職場復帰についてはジレンマを感じる。 ・子育て中の不安は、近くに子どもを見てくれる人がいない、相談できる人がいないという悩みのほかにも、子が育った後の女性としての社会復帰への不安もあると思う。子育て支援センターなどで相談しながら勉強しキャ

- リア形成のできる場を設けることも悩みを解決する方法といえる。
- ・サービスについて、表に出していない部分をどうサポートしていくかが課題といえる。
 - ・経営者として、産休に入る従業員から「出産後も雇ってもらえるのか」と言った相談を受けることがある。雇用主としては社会復帰を応援する意味でも「せっかく会社で身に付けた技術があるのだから、もったいないから安心して戻っておいで」と伝えている。
 - ・子育て支援のNPO法人にも参加していることもあり、NPOと市が連携していくと良いと思う。
 - ・伊勢市内で、子育てママ向けのフリーマガジンを発行している団体がある。また、掲示板などを活用すれば子育て世代の人達が知りあえるきっかけになる。
 - ・子育て支援事業の案内や子育てサークルの情報を掲載したものに企業から広告を募ればゼロ予算でできるかもしれない。
 - ・現代社会で子育てすることは、ほんとに大変であると感じている。自分が住んでいる地区は学区ごとに年に2回の祭があり、それらのイベントに参加することで地域の子どもたちの顔を覚え、あいさつや声掛けなどの見守り活動を行うことなどにより、地域で子育てに参加していると感じている。
 - ・地域で見守りができれば少しは良いのではないか。
 - ・時代が変わって、子育ての方法も変わった。自分は親から放ったらかしで育てられたが、近所の住民がよく面倒を見てくれていたのだと思う。
 - ・新聞で桑名市の子育てボランティアの記事を見たことがある。ボランティアになるにも講習を受け、知識を身に付けなければならないと書いてあった。もう少し気軽にボランティアができるの良いと思う。
 - ・行政が主体となるイベントについてはどうしても説明責任が発生してしまう。
 - ・市民の方の許容があれば、気軽にボランティアができるようになるので、お互いのバランスだと思う。
 - ・自分は子育てサロン事業に参加している。陽だまりの丘に子育て支援拠点施設『ぽかぽか』ができ、そちらに参加者であるお母さん達に移っても、従来の参加者の一部が、交通手段がない(自家用車がない)などの理由でもとの施設での子育て支援事業を希望すると閉鎖ができない。拠点が増えても保育士さんやボランティアさんが増えなければ運営側には限界があると思う。
 - ・ボランティアといっても、ある程度の技術や条件は必要と考える。高齢者が子育てのお手伝いをして、腰を傷めるなどのトラブルがあっても補償が難しい。
 - ・自分はいくつかの子育てサークルが、設立されて数年でなくなっていくケースを見てきた。子育てサークルの運営者達は自分の子供が育ってしまうと活動をやめてしまう。核となる人やアドバイザー的な人材がいると継続的な運営が可能になると思う。
 - ・各地域に、良いものがあるのだけれど長続きしない、知られていないというケースは多い。一つひとつのパーツをつなぎ合わせるシステムの構築が必要である。
 - ・子育てについては病児保育、小児医療も重要な要素。新病院ではその分野にも力を入れているとうかがっている。子育てには病気の時のケアも重要である。
- (学校教育)**
- ・税理士として、小学校に租税教育の一環として講義をすることがある。子どもたちに『税金のおかげで授業が受けられるんだよ』とわかりやすい例を使って教えると、子供たちの税に関する考え方も変わるし、先生方も子どもたちが真剣に授業を聞くので感謝してくれる。外部の、その道のプロが、子どもたちに分かりやすく教えれば、子どもも興味を示すし良い刺激になる。

- ・自分も県内の高校でゼミをしているが、違う立場の人が講義をすると、なによりも教師が喜んでくれる。現在の教師は教えたいけど教えられない状況に置かれている。なにか特別なことをやろうとすると授業を削るなどいわれたりしてしまう。学力をつけて試験に受かることだけが教育だと、親の世代が考えているようだ。また、教師たちも社会との接点のない者が多く、現在の学校は隔離されたような世界で授業が行われていると感じる。あまりにも学力だけを重視すると、社会に出たときに伸びなくなる。そういった意味で他分野からの教育は重要と考える。
- ・自分は学校の先生が楽しければ、生徒たちも楽しいと考える。今の先生たちは子どもではなく親を見て教育しているのではないか。説明責任を重視しすぎて、本来の教える業務よりも報告等の事務に追われているのではないか。先生が楽しんでできる現場にしてほしい。また、授業の中で、自分たちの住んでいる桑名の良いところ、歴史や文化についてももっと教えてほしい。桑名市をもっと好きになってほしい。
- ・教育環境を市として支えていくことが必要。
- ・社会の中で教えたいと思っている人や、地域の人がゲストティーチャーとして、先生をサポートし、先生がいきいきしている現場づくりをしてほしい。
- ・情報の充実で、子どもたちも知識ばかりが先行しているのではないか。プロセスを学び、失敗も経験しないと実践では活かせない。社会に通用する教育を望む。
- ・小中学校教育の充実を強化すれば、桑名の魅力となり強みとなる。
- ・現代の小中学校教育では、実社会を知る機会が少ないと感じる。また、先生方は何をしても制約を受けてしまうので萎縮してしまい、子どものためにも思っても行動にうつせない。教師が全部を背負いこまなくてもよい環境の整備をお願いしたい。
- ・桑名市には保護者が教育の現場に参加するサポーター制度があるが、子どものいる世帯しか知らなかったり、お父さんは知らない場合もある。もっと知ってもらいたい。
- ・地元の野菜を有効に使って、学校給食の提供をしてほしい。自分はトマト農家として地元の小学生達と交流をおこなったが、とても楽しかった。
- ・食を通じた交流や教育もある。

(人権教育)

- ・人権教育の一環として、地域の人とふれあうことが大切。地域の人が先生の代わりに教えたり叱ったりすることも大切だと思う。先生が子供に気を遣いすぎて友達どうしみたいになっている。叱れない先生が多い。
- ・教育現場に『気づき』を教える機会が少ない。また、24時間を学校で過ごすわけではないのだから、学校以外でもディスカッションできる場を設けていくべきである。
- ・現在の教育については、みんなが似たような考えを潜在的に持っていると感じた。市民会議のような場で問題提起を行い、教育現場を変えていこうという動きを作ることもできる。
- ・人権教育は、社会をあるがままに見せるということでもある。

【世界に向けて開かれたまち】

(国際理解教育)

- ・日本に住む外国人は、労働してお金を得るために日本に住んでいる。そのため仕事が優先で子どもの相手ができない、また、日本語がわからないので子どもに教えられないという状況。桑名市の学校では、国際関係の拠点校を設定し、イベントを行ったり、ALTという語学指導をおこなう人を派遣したりしている。
- ・小学校から英語に触れることは良いこと。市として英語教育に力を入れていると感じる。
- ・知り合いに日本語教室で日本語を教えるボランティアをしている方がいる。

自分は英語もしゃべれないが、そういった活動なら参加できるかなと思った。

- ・世界に目を向けると、外国語といえば英語だけではないという印象を受ける。
- ・ボーダレス化が進み、日本大手企業の中には海外拠点を持つものも多い。日本の企業でも、従業員の半分は外国人といっても過言ではない。本来の意味でもボーダレス化が進んでいる。『私は桑名に住む地球人』という感覚で、言葉を教える、学ぶだけでなく、異文化の人々と交流することが重要。
- ・小学校に桑名市にすむ外国人が講義に出向き、母国の紹介をすることもいいのではないかと。また、海外に接する機会を市として提供するというのも一つの手段。

『こども使節団』と称して外国に連れていき、学んでもらうなど。

【国内国際交流】

- ・地元で中国出身の方とブラジル出身の方がいる。地域の防災訓練やウォーキングなどのイベントにも参加してもらっている。イベントに参加し、飲食をともにすることで誤解が解けることもよくある。
- ・多国籍の方が桑名市に住んでいる。タテ割りの住民どうしが連携して交流すれば横につながり、親の世代が積極的に外国人と交流する姿を見て、子ども達も理解を深める。
- ・普通に外国人が住めるまちとして一歩進んだおもてなしをすることで他自治体との差別化を図ることができる。
- ・外国人に日本語を教えているが、日本語のわかる外国人でも表記が複雑だと悩むことがある。公的な表記はやさしい日本語表記に心がけていただきたい。
- ・国際交流については民間企業の方が積極的だと思う。企業団体と連携をとることが必要と考える。
- ・大企業では、自社で外国人労働者に対する日本語研修を実施している。桑名市にも外国人労働者は多いが、中小企業に勤務する者が多いので、それらの方に日本語を学ぶ機会を用意する仕組みが重要かと思う。また、技術交換留学などでドイツやチェコから桑名市を訪れている外国人に桑名の良さを知ってもらい、桑名をPRするなど、企業と連携しながら国際交流を進めていくと良いと思う。
- ・日本語教室は桑名市にありますか。
- ・アメリカのまちには、市民大学が複数存在し、外国人のための英語の教室などを開講している。場所を提供するのも1つの方法と考える。
例えば日曜日の午前中に市役所の会議室を開放して市民団体に利用してもらおうなど。
- ・知識人や技術者などの外国人に桑名市を知ってもらうことは効果大。例えば、桑名市で国際会議をしてみてもどうか。会議の後に観光名所を案内し、イメージアップを図るのもひとつ。口コミは大事である。観光マップも多言語表記を取り入れてみるかどうか。現状確認をすれば、じわじわと桑名市の良さがにじみ出てくる。
- ・どう外国人を受け入れていくかということを考える際には、日本語の教育は、大切な視点である。

【地理的優位性を活かした元気なまち】

- ・交通の便が良すぎて、どこへでも行けるので行動範囲が分散し、まちとして軸となるところがない気がする。
- ・行政は桑名市の中心市街地をどことらえているか。
桑名駅周辺が中心市街地で市の玄関口であるならば、きれいにするだけでも市外から来た人は良い印象を受ける。
- ・桑名市の隣の川越町などの近隣市町で利用料の格差が大きいと感じる。広域行政化することはできないか。また、コミュニティバスの市町間での接続がうまくない。公共交通について広域で運営できないか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスの時刻表は桑名市のホームページに掲載しているか。同時に、近隣市町の時刻表も掲載したり、近隣市町と接続の調整を行うことは低コストでもできることがあるのではないか。 ・広報くわなのレスポンス調査をしてみたらどうか。 ・駅周辺事業について、もう少し市民の目に見えるような事業を優先的にできないか。あまりにも工期が長いと、市民も何をやっているのか分からなくなる。 ・公共交通機関を利用するが、桑名市は公共交通網が不便と感じる。道路網が、車に乗る人を中心に整備されていると感じる。 ・住民も高齢になると運転ができなくなり、公共交通機関を利用することになることを考えてほしい。 ・住民が変わるとまちづくりの考え方も変わる。住民がライフステージに合わせて住むまちを変えていくこともありうる。 ・広報くわなの切り口をもう少し検討していただき、読みたくなるような工夫をしてほしい。 ・桑名駅前の事業等の現状について、地域によっては知っている人は少ないと思う。進捗状況や情報の見える化をしてほしい。 ・コミュニティバスの活用について、終バスとして活用し、終電後の住民の帰宅手段とすれば、駅前の飲食店の活性化にもつながるのではないか。 ・三重交通とコミュニティバスの競合路線については解決できないか。
<p style="text-align: center;">担 当 課</p>	<p>市長公室 政策経営課</p>